

西東京市 図書館だより

平成16年(2004年)10月1日

第15号

中央図書館

西東京市南町5-6-11
0424-65-0823

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
0424-21-4545

下保谷図書館

西東京市下保谷4-3-18
0424-21-3060

柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1
0424-64-8240

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
0424-65-9825

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
0424-24-0264

編集・発行：西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.tokyo.jp>



けやき小6年 横山潤

変わりやすいのは、女心が男心か!?

秋の夜長、みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

今回、図書館だよりの原稿の出だしに、秋の季節にちなんだ、ちよっと素敵なフレーズを拝借しようと、「ことわざ辞典」をめくってみました。「秋の日は釣瓶落とし」「秋茄子嫁に食わずな」「男心と秋の空……んん？このことわざって、「女心と〜」ではなかったかしら？さっそく、「男心」の項目を見てみると、ちゃんと載っているではありませんか。

男心と秋の空

「秋の天気がよく変わるように、男の人の女の人の愛情もよく変わるものだ」

参考 昔はこのことばのほうが「女心と秋の空」よりよく使われた。

小学館『例解学習ことわざ辞典』より

なるほど。もう一冊別の辞典を見ると、用例が載っていました。

「男心と秋の空と、たとへのごとく竹次郎は、またお若がことは忘れて、通い路も疎くなり」「人情・恋の若竹一中」

小学館『故事ことわざの辞典』より

こんなふうには、昔は変わりやすいものとされていたのは「女心」ではなく「男心」であったようです。ちなみに、同辞典によると、西洋では「女心と冬の空」というのだそう。

では、西洋には「男心と冬の空」ということわざはないの？そもそも、いつから「女心と〜」が一般的になったの？次々疑問がわいてきます。一つの興味から、本の情報を得て、また新たな興味が生まれる。ネットサーフィンならぬブックサーフィンも、時には楽しいものです。

★声の広報をお届けしています

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館(☎21-4545)・柳沢図書館(☎64-8240)へお問い合わせを